

# うたのこころ うたのいのち

## ～震災を越えて～

はつなつの夕暮れにしてまぼろしの  
ふるさとの庭にひとり佇む  
田中きわ子 歌集『夢の海』より

草のうへに積もれる落ち葉かき集む  
天使のしごとといふをわれする  
佐藤通雅 歌集『強霜』より

### 【出演】

お話：河北歌壇選者 佐藤通雅

朗読：田中きわ子、佐々木玲子

演奏：ライアーアンサンブル クヴェレ（菅生まさ子・伊澤久美子・伊藤裕美・小松原裕子・横山園子）

平成25年7月7日（日） 午後14時～15時40分（開場 13:30～）

会場 ティーラウンジ ルフラン（TEL022-211-1965） 入場料 1500円（要予約）お茶とお菓子がつきます。

お申込み FAX 022-707-5244 メール：roudokusalon@yahoo.co.jp

住所・氏名・連絡先、希望枚数を明記の上、FAX かメールでお申し込みください。チケットの郵送時にお振込のご案内をいたします。振込手数料は各自でご負担ください。ご購入後のチケットのキャンセル、払い戻しはいたしません。

問い合わせ 090-7663-4102（事務局）

主催 朗読サロン虹の街

後援 仙台市教育委員会・河北新報社（予定）

## ごあいさつ

代表 菊田 郁朗  
副代表 石森 浩一  
发起人 田中きわ子  
渡辺 仁子

季節は巡り、樺並木も生命の讃歌を奏でています。

「街角から詩歌と音楽の調べを一それは、特別なものではなくいつも生活の一部として身近にある」という思いを伝えたくスタートして4年目、皆様に支えられて、朗読サロン『虹の街』は第8回を迎えることになりました。

今回は、『うたのころろ うたのいのち ～震災を越えて～』と言うテーマのもと、宮沢賢治研究者であり、河北歌壇選者の佐藤通雅氏をゲストにお迎えし、長期にわたる個人誌発行や短歌への取り組みと 3.11 がどのように詠まれたか等についてお話をお伺いしたいと思います。

また、震災に直面しながらもそれを乗り越えて、命の切なさやふるさとの再生を祈り、詠み続けた田中きわ子自作歌を朗読いたします。

会場にはドイツ生まれの小さな竖琴・ライアーのあたたかい演奏をお楽しみいただきたいと思いますので、ぜひご来場くださいますようお願い申し上げます。

## プログラム

1. お話 佐藤通雅氏
2. 演奏 ライアーアンサンブル クヴェレ  
休憩
3. 朗読 田中きわ子歌集より  
「花」 佐々木玲子  
「ふるさと」 田中きわ子
4. 演奏 ライアーアンサンブル クヴェレ
5. 虹の街トーク＜佐藤通雅氏を囲んで＞

## お話：佐藤通雅（さとうみちまさ）

1943年岩手県水沢に生まれる。東北大学教育学部卒業後、宮城県で高校の国語教師となる。1966年、文学思想個人誌「路上」を創刊、詩歌に加え歌論、児童文学論、学校論などを展開。主な著書に『新美南吉童話論』（アリス館）『宮沢賢治の文学世界』（泰流社）『詩人まど・みちお』（北冬舎）『宮沢賢治東北碎石工場技師論』（学藝書林）『賢治短歌へ』（洋々社）など、数々の著書がある。2012年第九歌集『強霜』（こはじも）で第27回詩歌文学館賞を受賞。河北歌壇選者。

## 朗読：田中きわ子（たなかきわこ）

宮城県南三陸町志津川出身。「郡山の四季 風草」を1980年創刊、30年間発行し86号で終刊。歌人。詩集『陽はまた昇る』、歌集『海は受容す』『広瀬川暮情』『女沼』、2012年3月、『再生の祈り 夢の海』出版。評論書『女流歌人 花の幻想』は選定図書。2012年、若柳柳徳寺に歌碑が建立された。

## 朗読：佐々木玲子（ささきれいこ）

仙台市在住。歌手の堀澤麻衣子氏（株アマートムジカ代表）、きらり講座主催の熊谷智美氏に声の出し方や魅力やについて学ぶ。小学校での読み聞かせをはじめとする朗読活動を行っている。

## 演奏：ライアーアンサンブル クヴェレ

（管生まさ子・伊澤久美子・伊藤裕美・小松原裕子・横山園子）  
ライアーとは、思想家ルドルフ・シュタイナーのもとに南ドイツで作られた竖琴である。そのルーツは古代メソポタミアにまでさかのぼる。欧米では教育や音楽療法として使われ、日本では「千と千尋の神隠し」の「いつでも何度でも」の演奏で知られるようになる。

<会場>ティーラウンジ ルフラン 広瀬通りの一本南側の通り。阿部整形外科医院の隣のビルのつきあたり一番奥。

